

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610126124		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	山城第一グループホーム		
所在地	徳島県徳島市山城西1丁目182-3		
自己評価作成日	平成23年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3610126124&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が、毎日明るい雰囲気の中で、安心してリラックスした生活ができるように支援している。また、壁や廊下に、季節の飾りや行事での写真、思い出の作品等を飾っている。医療・介護の連携もスムーズで住み慣れた事業所で終末期を望まれる家族も多く、全職員が自信を持って取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の近隣には、大学や高等学校、中学校、小学校、幼稚園等がある。また、会議や学会等を行うことができる施設があり活用している。大学祭等の催しに参加し楽しんでいる。また、事業所は少人数制のアットホームな雰囲気がある。母体の医療機関と連携体制を構築しており、利用者の希望に応じて事業所で終末期を過ごすことも可能なため本人や家族の安心に繋がっている。職員は、年次事業計画に基づく研修等を通して自身の知識や技術の向上に努め、利用者の安心した生活の実現に取り組んでいる。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示している。毎朝、申し送り時に唱和し、実践に向けて取り組んでいる。	理念をスタッフルームに掲示している。毎日の申し送り時に唱和して共有化を図り、ケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。秋祭りに参加したり、大学の学園祭見学や散歩、近隣の飲食店等で外食や買い物もやっている。	事業所は町内会に加入しており、情報を得て催しに参加している。近隣に大学や高等学校、中学校、小学校がある。外食や買い物に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議等の際、家族や地域の方に認知症の理解をしてもらえるように取り組んでいる。また、デイケアの利用者との交流も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や行事報告を行って、意見を出し合ってサービスの質の向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所の経営者、職員の参加がある。利用者の状況や事業所の行事報告等について検討し、意見を出し合っている。話し合った内容は、記録して共有化に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回、市担当課を訪問し、顔なじみの関係を構築している。実情報告を行うなどして、協力関係を築いている。	月1回、管理者は市担当課を訪問し、定期報告を行っている。また、日ごろの業務で分からない事項等について聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成している。また、身体拘束の弊害について、マニュアルをもとに研修を行って正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でコミュニケーションを図って防止に努めている。マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいないため活用していない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者や家族に十分な説明を行って、理解や納得を得ている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と密にコミュニケーションを取っており、気軽に意見や要望を言ってもらえるように努めている。また、意見箱を設置し、自由に投函できるようにしている。	利用者や家族から気軽に意見や要望を言ってもらえるよう面会時等に話しかけている。出された意見等は、経営者等と話し合ったり、運営推進会議で検討して、運営に反映できるよう取り組んでいる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、管理者や職員間で話し合って意見交換に努め、出された意見等は責任者会議で伝えている。	管理者や職員は、ミーティング等の際によく話し合っている。出された意見等は、法人の責任者会議で検討し運営に反映している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日ごろから、代表者と職員は話し合う機会がある。代表者は、職員の意見を聞き入れるように努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じた研修への参加を促し、スキルアップに協力できる体制を構築している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修委員として参加し、他事業所との交流や情報交換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの相談や要望には、ゆっくりと傾聴し受け止めて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族の困っていることや不安なことを親身になって聞いている。また、電話や面会時等に話し合っており、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、意見や要望をもとに必要としていることを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のペースに応じたコミュニケーションに努めている。利用者から教えてもらったり、楽しく笑い支え合う関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が相談しやすい環境づくりを心がけ、信頼関係や支え合える関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を把握し、馴染みの場所や人に会いに出かけられるよう家族と連携を図って支援している。	利用者の生活歴を把握し、希望する美容院に行ったり、家族の協力のもと墓参り等に出かけている。馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の団樂の場において、それぞれの役割や居場所づくりを心がけている。利用者同士が支え合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者へ、併設事業所を利用している方がおり、会話を楽しんだり他の利用者を紹介してもらうなど、今までの付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望等を傾聴している。本人の立場に立ち、全職員で意見を出し合って検討している。	日ごろから、利用者に寄り添って積極的に声かけを行い、本人の希望や意向の把握に努めている。また、意向の把握が困難な場合は、本人本位に考え検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴を大切にしている。毎日化粧する方を支援したり、好きな飲み物等を提供するように対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の申し送りノートを作成し、朝・夕の申し送り時に内容を伝達して、利用者一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族から意見や要望等を聞いている。毎月、ケアカンファレンスを開催し、出された意見を介護計画に反映している。	定期的にケアカンファレンスを開催し、本人や家族、職員等の関係者が話し合い、希望や意見が反映された介護計画が作成されている。モニタリングは定期と、状態に変化があったときに行い、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日ごろの様子やケアの実践等を、個別記録や申し送りノートに記載して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージやカラオケ、慰問、誕生会等、その時々に応じた柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望に応じて、新聞や雑誌を購入したり、買い物や銀行、美容院等に出かけている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、利用者一人ひとりの受診体制を確保している。他科の受診も支援している。	本人や家族の希望を尊重し、個別の受診体制を確保している。適切な医療が受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、看護師長に心身状態の報告を行っている。日ごろから、相談や助言を受けられる体制を構築している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者がやむを得ず入院に至った際には、職員がお見舞いに行き、主治医との情報交換や相談に努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、看取りに関する指針を説明している。状態に変化が見受けられた際には、家族へ報告を行い、医師から十分に説明してもらって同意を得ている。また、状態変化に応じて対応できるよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期に向けた方針を重要事項説明書に明文化している。また、契約時にていねいに説明を行って同意を得ている。また、状態変化に応じた説明を十分に行って対応し、関係者間で方針を共有している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時及び緊急対応マニュアルを作成し対応している。医師や看護師と24時間の連絡体制を構築している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施している。地域の民生委員の協力や参加を得ている。	年2回、日中と夜間を想定した災害・避難訓練を実施している。事務所の窓の下に、避難時用のヘルメットを準備している。民生委員を通して地域との協力体制を構築している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性を見極め、それぞれに応じた声かけを行っている。	利用者の人格を尊重し、一人ひとりに応じた声かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに応じた声かけに努め、利用者の自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに沿った見守り等の支援を行っている。また、利用者の体調や気持ち等に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日ごろから、化粧や好きな服を選んで着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員はテーブルを囲んで楽しい雰囲気の中同じ食事をとっている。また、おしぼり巻きやお盆拭き等を、利用者一人ひとりの役割としてとにも行っている。	食事の準備や片づけ、おしぼりの用意、お膳拭きなど、利用者の力に応じて役割を担ってもらっている。利用者や職員は、同じテーブルを囲んで季節に応じた会話や食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をチェックし、職員間で情報を共有している。利用者のの身体状態を見極め、より食べやすいように食器等を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きの声かけを行っている。希望者には、歯科医に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人にあった声かけや支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に応じた支援を行っている。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取に努めている。利用者一人ひとりにあわせて体操を行うなど、適度な運動を取り入れている。腹部のマッサージ等もやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた入浴日はあるが、利用者の希望に応じて入れる体制を構築している。また、足浴も行っている。	入浴日は火・木・土と決められているが、利用者の希望に応じて支援している。また、清拭や足浴の支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促して生活リズムを整え、ゆったりと休息・安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースごとに薬の説明書を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には、確認と介助を行っている。症状の変化があるときには、速やかに医師に報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの聞き取りや生活歴、本人との会話の中で、その人に合った楽しみや役割を見つけて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や買い物、散歩等、利用者の希望に応じた外出の支援を行っている。	家族の協力のもと、利用者の希望に応じて近隣の散歩や大学祭、花見、買い物等に出かけている。利用者に喜んでもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かっている。しかし、本人の希望に応じて、家族と相談し合意を得たうえで所持してもらい使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事業所内で自由に電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や壁には、季節を感じられる飾り付けや写真を掲示している。台所や和室、食堂等、アットホームな雰囲気の中で楽しく過ごしてもらっている。	共用空間の壁面には、利用者や職員の作品や写真を飾っている。また、和室やソファを設置し、洗濯物を片づけたり、気の合う利用者同士が会話を楽しんでいる。採光や換気も十分に行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でテレビを見たり、ソファでくつろいだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やテレビ、写真等、慣れ親しんだものを自由に持ち込んでもらっている。	居室には、使い慣れた家具や調度品を持ち込んでもらっており、家族の写真や絵画等も飾っている。食事やテレビ観賞等は、好きなところで楽しむことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、写真や目印を付けるなどの工夫を行っているが、建物の構造上難しいこともある。ポータブルトイレを設置している。		